

# ブリ類養殖振興勉強会

## 【課題名】 養殖ブリの輸出を促進するための人工種苗生産技術高度化及び高品質冷凍流通技術体系の開発

〔講演者所属〕 木村郁夫 (国) 鹿児島大学

〔参画研究機関〕 (国) 鹿児島大学、(研) 水産研究・教育機構西海区水産研究所、(国) 長崎大学、鹿児島県水産技術開発センター・(企画・栽培養殖部)、(公財) かごしま豊かな海づくり協会、日本農産工業(株)、東町漁協、(株) マルイチ産商、ニチモウ(株)、東洋水産機械(株)、黒瀬水産(株)、グローバル・オーシャン・ワークス(株)、(普及担当機関) 鹿児島県水産技術開発センター・(水産食品部)、鹿児島県商工労働水産部水産振興課

### 1 背景・課題

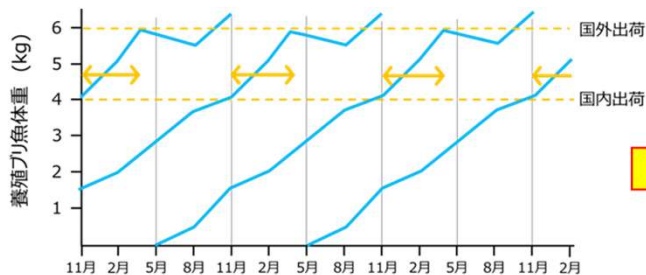
養殖ブリの輸出を促進するために、①人工種苗を安定的に、必要な時期に大量に生産し供給する技術、②一酸化炭素(CO)処理に代わる冷凍流通中の変色防止技術の構築が必要である。

### 2 目標

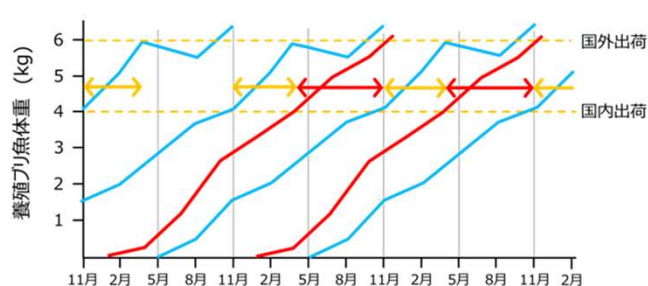
生産現場が求める時期に最適サイズのブリ人工種苗を供給するために①通年採卵のための親魚養成マニュアルの作成、②オンデマンド型ブリ人工種苗35万尾安定供給システムの構築、および③人工種苗を用いた養殖実証試験と鹿児島県内への経済波及効果分析を行う。高品質冷凍技術流通体系の開発では、CO処理に代わる冷凍保存中の褐変抑制法として高濃度にATPを維持する必要がある、①水揚げ時のストレス軽減技術と②高速魚体処理、③水揚げから冷凍加工流通・消費まで一貫した管理技術体系を実証構築し、技術を普及する。

### 3 概要

#### 1 オンデマンド人工種苗供給体系の構築によるブリ養殖生産の効率化



天然種苗では通年出荷が困難



人工種苗は端境期を埋めることが可能

- ☆ 天然種苗の「裏作」として養殖できるため、生産量の純増が可能
- ☆ トレーサビリティシステムへの対応や有用家系の導入も可能となる

#### 2 諸外国の法規制に対応した高品質冷凍ブリ商品輸出を可能とする加工流通技術体系の構築

##### (1) 水揚げ時のストレス軽減技術開発



特許出願:「鎮静水揚げ方法」特願2015-138129

##### (2) 高速魚体処理機の開発 (処理能力 1500尾/時)



高速ヘッドカット  
内臓除去機  
開発



ヘッドカットと  
内臓・腎臓除去

##### (3) 高ATP含有フィレでは冷凍保存中の魚肉の変色は抑制され、肉質も良好

